

## NGO ネパール少数民族の識字教育支援の会

2009 年度活動報告 (2009 年 8 月 1 日～2010 年 8 月 1 日)

### (活動の目的)

ネパールの識字率は、全国平均で男性 59%、女性 24%と低く、(ユニセフ子ども白書 2004 より) 特に女性の識字率が低いのに加えて、地域格差も大きい。都市部では高いが、中西部の山岳地帯や丘陵・平原地帯などでは、平均 35%を下回る地区が多く、これらの地区には、主として少数民族がすんでいる。

ネパールは、90 を超える多言語の国である。公用語はネパール語だが、ネパール語以外の言語を母語とする少数民族の子どもたちは、日常使う言葉とは違う言語(ネパール語)で教育を受けている。

少数民族の村の子どもたちは、学校に通い始めても、自分たちの言葉(母語)ではない言語での授業が分からずに、1～2 年で中退してしまうことも多い。これは、私たち日本人が自分の子どもに、英語で初等教育をせざるを得ない状況になったとしたら、また、身の周りに英語の本しかないという状況を想定すれば、事の重大さが分かる。そんな子どもたちを、どうすれば救えるのだろうか。

まず少数民族の母語による識字教育に取り組むことによって教育の普及を図り、ネパール語(公用語)の識字教育に繋げていくことが大切であると考えます。

ただし、当会が直接識字教育をするのではなく、現地で少数民族の母語による識字教育をしている NGO「母語センター・ネパール」(Mother Tongue Centre Nepal : MTCN と略す)の活動を支援することによって、間接的に関与している。具体的には、日本において NGO「母語センター・ネパール」(MTCN)の活動の広報と寄付金を募ることによって、ネパールでの識字教育を支援することを目的としている。

### (活動の内容と方法)

NGO「母語センター・ネパール」(MTCN)は、それぞれの少数民族の言語で自分たちの村の物語を作るワークショップを通して、母語による本の作成と普及および人材育成に取り組んでいる。

具体的には、教師養成ワークショップと物語教材作成ワークショップの2つのワークシ

ヨップを開く。教師養成ワークショップは、物語教材作成ワークショップで教えることができる教師を養成することが目的のワークショップ、物語教材作成ワークショップは、それぞれの村での経験をもとに物語を作成するのが目的である。その過程でコンピュータの使い方や編集の仕方、フィールド・チェックの方法、教材の使い方や配布先、出版計画などについて指導する。ワークショップ終了後、各参加者はワークショップで創作した物語の本を各村に持ち帰って、フィールド・チェック（村の文化に適しているか、読みやすいか、内容は適正かなどをチェック）して、その結果を報告する。それにそって、本文、挿絵の修正を各言語グループの人々と話し合いをし、形態を整えて印刷屋に送り、印刷する。

### (活動の実施経過)

2009 年 10 月 ~ 12 月	<b>ワークショップ準備</b> 教材準備、2つのワークショップの準備、(教師養成ワークショップ、物語教材作成ワークショップ)、参加者とのコミュニケーション
2010 年 1 月 4 日 ~ 8 日	<b>教師養成ワークショップ</b> 参加者 5 人 ワークショップを指導できる教師を養成する
2010 年 1 月 11 日 ~ 21 日	<b>物語教材作成ワークショップ</b> 参加者 9 人 参加者は、それぞれの少数民族の村の物語を母語で作成する。その過程で、コンピュータの使い方、編集の仕方などを学ぶ
2010 年 2 月 ~ 4 月	<b>物語教材フィールド・チェック</b> 参加者は村に帰り、作成した物語を、村の文化に適しているか、読みやすいか、内容は適正かなどをチェックする
2010 年 4 月 ~ 6 月	<b>物語教材出版準備</b> フィールド・チェックの結果に沿い、本文・挿絵を完成させる
2010 年 6 月 ~ 7 月	<b>物語教材出版</b> 4 言語、9 冊 (各 1000 部)、出版した

### (活動の成果)

教師養成ワークショップで、5人の教師を養成した。このワークショップを受けた参加者

(教師)は、続いて実施された物語教材作成ワークショップで、実際に教えるトレーニングを受けることによって、教師としての研修を積むことができた。

物語教材作成ワークショップでは、9人が参加(14人の予定だったが、5人が不参加となる)して、以下の言語の本を作成した。

対象言語	参加者	冊数
バーヒン言語	3人	3冊
マイタリ言語	1人	1冊
タマング言語	3人	3冊
タル言語	2人	2冊
合計	9人	9冊

作成したそれぞれの村の物語の要約を、以下に示す。

#### バーヒン言語

##### ①「人民運動で勝利した日」(The Day of the Movement) 作者 Mekh Raj Sustocha Bahing

これは2007年の出来事である。ネパールの政党と一緒に我々の仲間は王宮通りに集まった。そこで、こん棒や催涙弾を持った警官が、王宮に向かっている群集を阻止した。警官と群集がぶつかり、警官は催涙弾や銃を発砲したので、人々は次第に散らされた。そのとき私の友人 Mulitongma が警官の銃で撃たれた。友人は、「今日からこの世の黒い雲は去ったと皆に伝えて」と言って息をひきとった。私は連日、この人民運動に参加するために出かけた。そして遂に、大海の流れが変わった。この人々の嵐を静めることが出来なかった王は、人民にその権力を譲った。人民の勇気と決断の行為が勝利したのだ。私の友人 Mulitongma の言ったように237年間覆っていた黒い雲は除かれ、王政は廃止され、人民は政権を自分たちの手にしたのである。

##### ②「私の足を挫いた日」(The Day I Twisted My Leg) 作者 Januka Bahing

7年前のことであった。そのころ片道2時間歩いて大学に通っていた。大学のクラスだけでなく、課外の活動にも友人と共に参加していた。ある日、友人達とピクニックに行くことにした。その日、手分けして薪を集め火をおこし、料理を作り皆で食事をした。食事の後、ダンスやゲームを夕方まで楽しんだ。その帰路で、友人達は色の粉を取り出して、お互いの顔に付け合っていた。その日は、顔に色を塗るネパールの祭りであった。私は、色を人々に塗るのも、塗られるのも大嫌いだったので、友達か

ら逃げた。その拍子にころんで、膝を挫いて歩けなくなった。その日は、村の家に歩いて帰れないので友達の家泊まったが、痛みのため2時間しか眠れなかった。兄が友達の家に来てくれ、3日後歩けるほどではなかったが、両親が心配していると思い、兄と朝早く友達の家を出発した。杖をついてゆっくりと山道を歩き、そして時には兄に負ぶってもらって、暗くなった頃家に着いた。母は「神様の哀れみで救われたんだよ」と言った。足が治るのに2ヶ月かかった。

### ③「友人の結婚式に行く」(Going to My Friends Wedding) 作者 Tara Hang Bahing

私の子どもの頃からの親友シベセが結婚することになったので、彼の村である結婚式に出席するために、前日の朝に出発した。山道を登ったり下ったりしながら、親友の結婚式でどんなことを話そうかと、子ども時代のことを思い出しながら道中を楽しんだ。道中、ジャガイモをかついで売りに行く人や、塩の買出しに行く人にも山道で出会った。夕方の4時頃霧が深くなり、雨が降りそうでとても寒くなったので、シェルパ族の宿で少し休むことにした。しばらくして、雨はやんだが外はすでに暗くなっていた。宿の主人は、泊まって明日の朝出発するように言ったが、私は親友の結婚式だから、どうしても今晚着きたいと言った。それで、宿の主人は竹でたいまつを作ってくれた。宿の主人に別れをつけ、滑りやすくなっている山道を歩き続けた。友人の家の近くで、たいまつは消えてしまったが、友人の家に着くことが出来た。友人の驚きよう。その夜は酒を酌み交わしながら、お互い喜びあった。

## マイタリ言語

### ④「私の人生の出来事」(My Life Experiences) 作者 Indra Bahadur Pariyar

私は、ネパールで中位の家庭に生まれたが、10歳の時村の学校に行くのをやめた。両親が老いて、家や畑の世話が出来なくなったからである。しかし、畑の仕事は私1人では出来なかったため、食べ物にも事欠き、それで畑を売ることにした。しばらくは良かったが、その金も底をつき、家庭でいつも言い争いが絶えなかった。その後結婚し、子どもも二人生まれたが、家族を養える働きがなかったため貧民よりもっと貧しい生活をしてきた。遂に残りの畑を売り、町に出ることにした。5日間歩いて、大きい町に来て生活したが畑を売った金も底をついた。ある日父が病気になって、3日後亡くなった。数日後、母も亡くなった。私は、毎日レンガや砂を運んで働いたお金で、家族を養った。食物が買えなくて、空腹のまま眠らなければならないこともあった。ある日、友達が尋ねてきて、私のために良い仕事を見つけ、野菜屋を開く資

金を貸してくれた。おかげで私達家族の生活も次第に楽になった。

私の人生経験から学んだことは、問題は無知から来るし、幸せは知恵を用いることからくるということである。もし、両親が土地を売ったお金で、私を学校に行かせてくれたら、もっと良い仕事を得ることができたと思う。

### タマング言語

#### ⑤「私の両親は私が学校へ行くことを禁止した」 (My Parents Prohibit My Going to School) 作者 Dipesh Tamang

私は6歳の時両親に学校に行かせて欲しいと言った。しかし両親は、勉強しても何もならない、だから学校には行くことはないと言った。何度頼んでも結局学校には行けなかった。友達たちが学校に行っているのが、とっとうらやましかった。私は学校に行く希望を失ってしまった。

私が8, 9歳の時、悪友と共に酒に酔ったり、麻薬やタバコを吸うようになり病気になったが、両親は自分の息子である私を重荷に思うようになり、私を拒絶した。

ある日、私は自分のしていることを悔いて、とにかく学ぼうと決心して、両親に「お金は要らない、けれど私は学校で学ぶ」と言った。それで、学校に行く費用のために、レンガや石を運んでお金を貯め、そのお金で学校で学びだした。そして、学んだことを生活に生かし、酒に酔ったり麻薬を吸うことをやめ、また友達にもやめる様に勧めた。村の人々は私が学び変化したことに驚き、両親も私のことを喜んでいてくれる。今では、私の両親は、子どもは学校に行かせるべきだと言っている。

#### ⑥「自分の村を愛すること」 (My Love for My Village) 作者 Shanti Tamang

何年も前のことであるが、私の両親はネパールからインドに働きに行った。私はインドで生まれ、4年生までインドの学校で学んだ。ある日、両親はネパールに今建築中の自分達の家を見に行くことにした。両親と私と妹の家族4人で、ネパールの両親の村に行くことになった。私達は4昼夜バスに乗ってネパールの国境に着いた。まずカトマンズの叔母の家に行った。そこから私たちの村は遠かった。その頃バスは途中までしか行かず、そこから先はジャングルを通り、石の多い上り坂下り坂を歩いた。第1日目は農家に泊めてもらった。夕飯の後すぐ眠り、次の朝早く出発した。小川に沿って道を探しながら歩き、村に着いたのは夜の7時であった。あまりにも疲れていたので、夕食も食べないで、次の朝母に起こされるまで眠った。私は、祖父母に始めて会えてうれしかった。牛や山羊を初めて見てとても驚いた。更に、驚いたことには、

村には水道がなく、井戸を使っていた。村には1週間いて友達もできた。私はもっと長く村に居たかったが、インドに帰らなければならなかった。しかし、この最初の村の訪問の経験を決して忘れることができない。だから、他の人にも是非一生に一度は自分の村を訪問してもらいたいと思う。

⑦「私の人生について思ったこと」(Thoughts concerning My Life) 作者 Janak Kumar Tamang

私の家はカブレの村にあった。私が10歳の時、両親は学校に行くようにと言った。その頃、学校は私の家から遠く、片道3時間歩いて行かなければならなかった。上り坂や下り坂、小川を渡り、森を通り抜けて学校に通った。私の家族は多く、仕事や土地をもっていなかったの、非常に貧しかった。時には本やノートや鉛筆が買えないこともあった。かばんをもっていなかったの、長い道のりを本やノートを持ち歩かなければならなかった。このような中でも、5年生まで勉強することができた。しかし、働かなければならなくなり、1年間学校を休むことになった。ある日、兄が町から帰って来て、学校に行きなさいと言って、学校に授業料を払ってくれたので、6年生のクラスで学ぶことになった。その頃、学校は近くなり、友達と一緒に学校に行くのはうれしかったが、制服や授業料のお金がなかったことがとても悲しかった。時には石や砂を運んで働いた。このようにして、10年生の卒業試験に受かり、今は村の学校で、小さい子ども達を教えている。我々の困難や苦労は、永久には続かない。私達が一生懸命働き耐え忍ぶならば、きっと幸せはやってくる。

タル言語

⑧「モーターバイクでの事故」(The Motorbike Accident) 作者 Dhurv Lata Chaudhary

午後4時頃、私と弟は4~5km離れた町に行ってみようということになった。私は父のバイクに弟を乗せて家を出発した。村を後にして、ハイウェイに入った。車が両サイドを行きかかっていて気持ちよかったので、スピードを出した。弟は怖いからゆっくり走ってと言った。トラックがすれ違ったり、私達を追い越して行ったりした。家に引き返そうとバイクを急に止めたら、突然バイクもろともそばの藪に倒れた。弟も私も足と手に怪我をして起き上がれずしばらく横たわっていたが、弟が起き上がって、私を助け起こしてくれた。運転が難しかったが、どうにか暗くなって帰り着くことが出来た。私がびっこを引いて歩いていたので、母がどうしたのか聞いた。事の次第を話したところ、母にとっても叱られた。完治して歩けるようになるまで2ヶ月かか

った。両親からバイクや自転車に乗る時は気をつけて運転し、スピードを出さないようにと戒められた。皆さんもスピードを出しすぎないように注意深く運転してください。

⑨私の人生で起こった困難なこと」(The Troubles in My Life) 作者 Rupa Chaudhary

私が6歳の時、父は村の学校に入学させてくれた。学校に行くのはとても楽しかった。私が9年生の時、母は田植えに行き足に棘が刺さったので、祈禱師に見せにいった。しかし、悪くなる一方で、歩けなくなった。それで、町の病院に連れて行き、手術を受け、母は杖をついて歩けるようになったが、その手術や治療費を村の人に借りたので、経済的に非常に困難になった。母の病気と家事をする人がいないので、私は学校へ行くことが出来なくなった。ある日、校長先生が家に来られて、私のために奨学金を手配してくれたので、私は朝早く起きて家の仕事を済ませて、再び学校で学ぶことが出来るようになった。他の人の畑で働いて得たお金で、11年生まで学んだ。

その後、大人の識字教育のトレーニングを受けて、今ではLife Development Centreの先生として働いている。私の人生は困難ではあったが、一生懸命に働くならば、きっと成功するということを、皆さんに伝えたい。

注) 今年度作成した9冊の本を、資料として添付する

(今後の課題)

これまで、22言語の物語教材を作成したが、あと8言語を3年程で完成させたい。これまで築いてきた母語による識字教育を普及させる活動を、ネパールの人々自身で継続して出来るようにすることが、なにより大切であると考え。そのための指導が、今後の大きな課題である。

そのために、現在母語センターネパール(MTCN)の3人のスタッフが他の人々を教えることが出来るように養成することが、まず第一の課題である。更に、もう2人のスタッフを採用し教師として養成することにより、MTCNは諸言語グループの要請に応じて物語教材の作成の指導を継続することができるようになると考える。